



所信表明演説

平成18年枕崎市議会第一回定例会が、3月3日に招集され、瀬戸口嘉昭市長が市政運営についての所信表明を行いました。その全文を紹介します。

平成18年3月議会の開会に当たり、市政に対する所信について申し述べ、議員並びに市民の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

私は、去る1月22日の市長選挙におきまして、多くの市民の支持をいただき、市長の重責を担わせていただくことになりました。今後、公約の実現を目指して、懸命に努力いたします所存であります。

1月26日の就任式で、職員に対し、「明るく、元気で、風通しのよい市役所」となるよう努力してほしいと訓辞いたしました。そのためには、上司が部下職員の声に謙虚に耳を傾け、また、部下職員が自分たちの考えを言いやすい雰囲気を作ること、そして、

職員の声が市長にもどんどん入ってくる環境を作ることが必要であります。

職員がお互いに、元氣よくあいさつを交わし、来庁した市民の方々へも明るい表情と声で気持ちよく応対することが「明るく、元気で、風通しのよい市役所」、そして「市民に信頼される市役所」の第一歩であると考えています。

枕崎を、明るく、そして活力ある街にするためには、政策集団である職員一人ひとりの自覚と行動が非常に重要であります。

「仕事には、あくまで厳しく、しかし、人間関係は温かく」として、「対話と信頼関係」を基本姿勢として市政を運営してまいります。

さて、就任直後から精力的

に各部署の所管事項の把握に努めておりますが、本市の財政の厳しさは予想以上のものがあり、今後、議会並びに市民の皆様の御理解をいただきながら、大胆で、かつ、積極的な行財政改革を進めていかなければ、本市の未来はないということを実感しております。

行財政改革を推進するためには必死で取り組んできた「集中改革プラン」の進捗管理と更なる見直しを図るとともに、施設の民営化等のスピードアップも図らなければなりません。

行財政改革の重要な柱である「職員給与の見直し」の積み残し分10項目及びび人事院勧告に伴う、いわゆる給与の構造改革につきましては、職員団体の信頼関係を再確認し、精力的に交渉を重ねた結果、

今回、一部を除いて、ほとんどが解決に至ったところであります。

さらに、公約いたしました特別職の報酬削減、収入役・部長制の廃止につきましては、早速、新年度から実施することとし、市長公用車につきましても、既に廃止の手続きをいたしております。

一方、厳しい財政状況の中で、受益者負担の見直し、福祉事業の見直し等、やむなく市民の皆様へ負担をお願いする部分も出てまいります。御理解をお願いいたします。

また、合併問題につきましては、南薩三町任意合併協議会への本市の参加申入れに対し、一昨日、同協議会としては、本市の参加受入れを見送り、3町での合併協議を最優先して進めるとの回答を受けました。

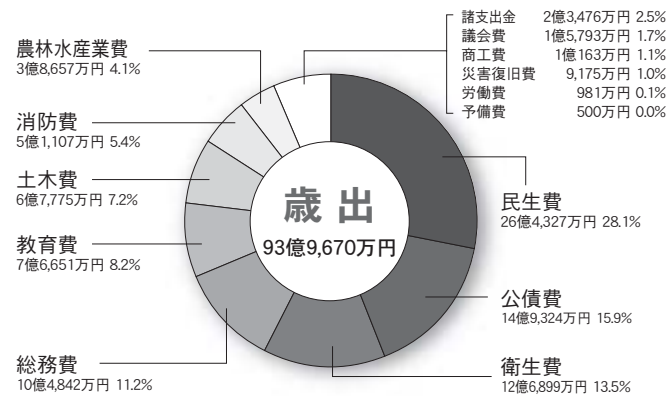
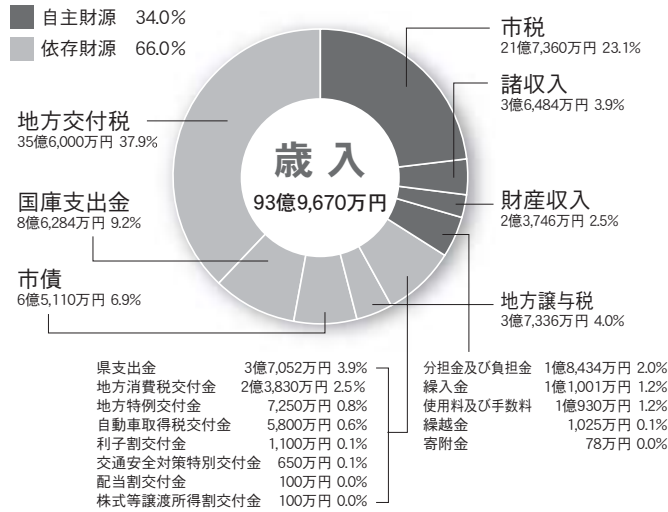
この結果につきましては、厳しく受け止めております。ただ、協議会会長からは参加受入れの見送りについて「いつまでという期限は決定していない。本市に対して扉は開けておく。」との言葉もありましたので、今後とも、適切な機会を見極めながら、できるだけ早急に協議に参加できるように根気強く申入れを続けてまいります。

本市を取り巻く状況は非常に厳しいものがありますが、今こそ、議会と行政そして市民が前向きに一丸となつて、枕崎市の未来を背負って子ども供たちのために、枕崎市民に向けて頑張っていかなければなりません。皆様の御支援をよろしくお願い申し上げます。

平成18年度当初予算

平成18年度一般会計当初予算
93億9,670万円

「骨格予算」でスタート



特別会計予算

会計名	予算額	増減額
国民健康保険	3,280,733	29,156
老人保健	3,924,908	119,838
介護保険	2,012,409	△42,159
公共下水道	951,001	21,339

※前年度当初予算比

企業会計予算(収益的収支)

会計名	予算額	増減額
病院事業	収入 451,817	3,401
	支出 468,613	6,207
水道事業	収入 504,728	△10,021
	支出 482,435	△12,311

※前年度当初予算比

引き続き 改革断行予算

平成18年度の予算編成に当たっては、17年度に策定した「集中改革プラン」(※6ページを参照)を反映させ、引き続き「改革断行予算」と位置付け、行財政改革を積極的に進め、財政の健全化を図っていくことを第一に考えました。

しかし、市長就任後間もないため、今回の当初予算は、年間予算ではありませんが、政策に係る収支を除いた人件費などの義務的経費を主体として必要最小限の収支のみを計上することを基本とする「骨格予算」としました。

語句説明

【歳入】

- 自主財源：市税など市が自分の手で調達できる収入
- 依存財源：国や県から定められた額を交付されたり割り当てられたりする収入
- 地方交付税：市町村間の行政運営に差が出ないように国が交付するお金
- 国庫支出金：事業など特定の目的の財源として国・県から交付されるお金
- 市債：特定の事業目的のために、市が国や銀行から借り入れるお金

【歳出】

- 民生費：老人、障害者、児童などの福祉全般に使うお金
- 衛生費：健康で衛生的な生活環境を守るための、保健・医療・環境などに使うお金
- 公債費：市債(市の借金)返済のために支払うお金